

## 当財団の「論理的作文」指導 名付けて「五理夢中」作文

- ①当財団では学校教育とはややスタンスの異なる方向から各種の教育にトライしている。
- ②その中から、このホームページでは職員の大蔵守久と高田英美により小学 1 年から 6 年を対象に実験的に行われた論理的作文指導について公開している。
- ③これは当財団の公益目的事業によるもので、教案・教材の公開により日本の教育に寄与することを内閣府に約して行っている。

### 何に重点を置いた作文指導か

学校教育では感想文中心の教育への批判から「伝える力」を養成する作文指導が採り入れられるようになった。しかし、起承転結や始め・中・終わりといった形式を重視したものが目立つ。そのこと自体は否定しないが、伝わる文とは読み手が納得できる文であり、納得させるためには「論理」が必要である。本教案・教材はその論理力を育むための作文指導をすることに重点を置いたものである。

### 論理的とは何か

児童期の論理的思考力とは、次のような視点で文を書くことだと考えている。

#### (1)事象の捉え方における論理性

- ①規則性・法則性を見つけて特徴づける
- ②比較して特徴を捉える
- ③分類して特徴を捉える
- ④関係づけて捉える
- ⑤数値化して捉える

#### (2)発信の仕方による論理性

- ①事例や根拠を挙げる
- ②多様な視点から捉える（反論想定）
- ③文章の流れ（論理展開）を作る

### 「五理夢中」作文

私たちが作文を書かせる視座として使ったのが、五つの理（ことわり）である。その五つとは、物理・経理・法理・地理・心理でそれぞれの「ことわり」を発見させることで世の中の事象を捉えさせるようにした。

これらの五理で、今までどう作文を書いてよいか分からなかった「五理霧中」状態から、五つの論理で書くことに夢中になれる状態へと誘うことを狙った。論理と言うと、感情のこもらぬ冷たいものに思われるが、心の理も扱うことで気持ちの問題にも迫った。

「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く」これは井上ひさしの言葉であるが、まさにこの言葉通り、小学生には難しいと思われる題材を易しく書き換えて提示。子どもだましの内容ではないので、小学生なりに思考を深めないと結論に到達しない(中高生でも頭をひねる話題)。でも、考えるのが嫌になってしまうのではなく、思わず考えたくなり、言いたくなるような面白い話題で筆を進めることができる…。そんな作文指導を試みた。

### これからの社会に

正解を求めるのではなく、自分なりの結論を導かせるのがこの作文指導の目的の一つである。誰も正解が分からない事態はいくらでも起こりうる。教えていた当時、原発事故で休校するかどうかを考えさせたが、今またコロナで同じような問題が突き付けられている。自分なりの結論を導き出さなくてはいけない事態はいつでも起こりうる。その時のために今から頭の準備を…そう願っての実験的な教室であった。これを参考にご自身の作文教育に取り入れてくだされば幸いである。